

Pseudomonas sp. 由来のクレアチナーゼ、組換え型

Cat. No. NATE-0162

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明 酵素学において、クレアチナーゼ（EC 3.5.3.3）は、次の化学反応を触媒する酵素です：クレアチン + H₂O ⇌ サルコシン + 尿素。したがって、この酵素の二つの基質はクレアチンとH₂Oであり、二つの生成物はサルコシンと尿素です。この酵素は加水分解酵素のファミリーに属し、ペプチド結合以外の炭素-窒素結合に作用するもので、特に線状アミジンにおいて働きます。クレアチナーゼは、クレアチンと水分子をサルコシンと尿素に交換する反応を加速します。常にホモ二量体状態で作用し、塩化コリンによって誘導されます。

用途 クレアチンアミジノヒドラーゼは、血液および尿中のクレアチニンの測定に使用される臨床的に重要な酵素です。

別名 クレアチンアミジノヒドラーゼ; クレアチナーゼ; 37340-58-2; EC 3.5.3.3

製品情報

種 シュードモナス属

由来 大腸菌

形態 凍結乾燥粉末

EC番号 EC 3.5.3.3

CAS登録番号 37340-58-2

活性 10-20 ユニット/mg タンパク質

組成 タンパク質、約70% ビウレット

単位定義 1ユニットは、pH 7.5、37°Cで1分あたり1.0μモルのクレアチンを尿素とサルコシンに加水分解します。

保管・発送情報

安定性 2-8°C